

教えて! 市立病院



【今月のドクター】

小児科長
まさ しんいち
笹 真一 医師

HPV ワクチンはヒトパピローマウイルスに対する予防接種です。対象年齢は小学校6年生から高校1年生までの女子で、標準的な接種年齢は中学校1年生です。合計3回接種します。

HPV ワクチンは2013年4月から定期接種化されましたが、接種後に持続的疼痛とうつうがみられた事例が発生し、しばらく接種が控えられていました。

〈第112回〉

HPV ワクチンを受けましょう

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

これらの事例は予防接種ストレス関連反応と考えられます。2022年4月からHPV ワクチンの積極的勧奨が再開され、接種を受けられなかった人へのキャッチアップ接種も行われています。その対象は1997年4月2日から2006年4月1日までの間に生まれた女性で、2022年4月から2025年3月までの3年間に公費で接種できます。接種していない人はこの期間にぜひ接種してほしいと思います。

ヒトパピローマウイルスの感染が子宮頸がんの発生に関与していると考えられています。日本国内では年間約1万人の女性が子宮頸りかんがんりかんに罹患し、約3千人が死亡して

います。HPV ワクチンにより子宮頸がんを予防することができます。

現在、HPV ワクチンの対象は女性のみですが、男性にも接種すべきです。男性もヒトパピローマウイルスに感染しますし、中咽頭ちゅういんとうがんの原因にもなると言われていました。ワクチン先進国のオーストラリアではHPV ワクチンは女性だけではなく男性にも接種されており、15歳時点での接種率は男女ともに80%を超えています。

また、子宮頸がん予防という観点ではワクチンと検診はセットで行うことが必要です。ワクチンを接種しているから検診を受けなくてよいということはありません。